

“輝け！ひぐみっ子” だより

～東汲沢小学校教育目標「学びあい 高めあい まちとともにあゆむ ひぐみっ子」～

☎861-5531

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/higashigumisawa/>

旅と読書

校長 丹羽正昇



明日から、6年生が日光修学旅行に出かけます。ひぐみっ子は、バスを利用して日光まで行きますが、小学校においては、私が教師になった頃は修学旅行専用列車のような鉄道が主な移動手段でした。どれくらい前から修学旅行があるのか、今回改めて調べてみることにしました。まずは、修学旅行の歴史です。文献によれば、修学旅行という言葉が用いられたのは、1888年に「尋常師範学校準則の通知」に「修学旅行は定期の休業中において一か年六十日以内とし可成(なるべく)生徒常食費以外の費用を要せざる方法によりてこれを施行すべし」(原文は漢字片仮名交じり文。漢字平仮名交じり文への変換や読み仮名は、筆者による。)と示されたことが最初ようです。実に134年も前から修学旅行は実施されていたのです。歴史ある学校行事の一つと言ってよいと思います。初めのうちは、徒歩で目的地まで行っていたようですが、そのうち輸送手段として鉄道が使われるようになって修学旅行専用列車が登場し、いまのように各校独自でバスや新幹線、飛行機などの多種多様な異動手段に変化していきました。(参照:公益財団法人日本修学旅行協会 Web ページより)

多くの学校の修学旅行の持ち物に本はありませんが、私の場合には必ず旅の供として本を持っていきます。昨今、電車やバスの中で、読書する人を見かけることが少なくなったようで残念だなと思いますが、鉄道のシートに腰掛け、車窓からの景色を眺めたり本を読んだりする。鉄道と読書が好きな私にとって、至福のひと時です。私は、旅と読書が、どこか似ているように思います。それら二つに共通しているのは、場所や時間、状況までも乗り越えられるということです。たとえば、それは別の誰かになった気分です。旅をしたり読書をしたりすることかもしれません。もしくは、旅の景色と本の内容がシンクロし、旅の途中で物語世界の既視感を味わうようなことかもしれません。旅と読書から得られる、どこからが現実で、どこまでが虚構の世界なのかという不思議な感覚。その心地よさ。それは、鉄道と読書をこよなく愛する私が、鉄道発祥の地であり、「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」が政令指定都市として初めて制定された地でもある横浜に暮らすことになった、数奇な巡り合わせから感じる大きな幸せにもつながっています。特にこの時期、強く思うことです。



出展するパネル

この時期と書いたのには、実は訳があります。横浜市では11月を、読書推進月間としているからです。学校においては、11月の第一金曜日を「はまっ子読書の日」と定め、今年度は11月4日がその日に当たります。「はまっ子読書の日」が2010(平成22)年の「国民読書年」を機に、子どもの読書活動を推進するために制定されたことを受け、学校図書館の運営のプロである学校司書が、2013(平成25)年から順次、小・中・特別支援学校全校に配置された本市において、市民の読書活動を進めていく主役は子どもなのだとい

思い。毎年11月が来るたびに、みんなで確認したいことです。

最後にお知らせです。戸塚区では毎年、区役所を会場の一つとして各校の読書活動の様子をパネルで報告する「小・中・高・特別支援学校読書活動パネル展」を開催しています。本校からは、図書委員会作成のパネルを出展します。GIGA 端末内にあるロイロノートで作成された力作です。展示期間は、11月1日(火)13時～11月10日(木)15時の予定。区役所のWeb ページ等を確認していただき、お時間があれば、ぜひご覧ください。